

**久屋大通（南エリア）再整備等事業に関する
公募型サウンディング調査
【結果概要】**

本市では、久屋大通（南エリア）再整備構想に基づき、南エリアの再整備の検討を進めております。この度、事業に対する参画の意向やアイデア、市場性の有無などを把握することを目的に公募型サウンディング調査を実施しましたので、その結果の概要を公表します。

1 実施経緯

実施要領の公表：令和7年4月28日（月）

対話の実施：令和7年5月～11月

2 参加事業者数

19グループ（24社）

3 事業者からの主な意見

(1) 事業全体について

- ・名古屋において重要な場所であり、何らかの形で関与したい。
- ・民間による提案の自由度を確保していただきたい。
- ・栄エリアの発展が停滞しないよう、円滑に事業を推進していただきたい。

(2) ゾーンごとの意見

1) ゾーンA

- ・北エリアと南エリアの接点であり、人の流れや賑わいをつなげることが大事である。
- ・SRTの停留所もできるため、待ち合わせや憩いの場などの空間が想定される。
- ・希望の泉（既存の水景施設）は、まちのシンボルとして活用することが望ましい。

2) ゾーンB

- ・中日ビルや三越、ザ・ランドマーク名古屋栄等の大型商業施設と連続性を図りながら、これらと差別化した店舗や公園にふさわしい店舗の設置が想定される。
- ・地下から地上への人の流れを作ることは重要であり、そのために地下と地上の連続性や視認性の確保が必要である。

3) ゾーンC

- ・既存のイベントのみならず、様々なイベントが開催できるような空間にすることが望ましい。
- ・イベントが開催しやすくなるように、インフラ（ステージ、電源、給排水、搬出入路、暑さ対策等）の整備が必要である。
- ・イベントのない時にも人が溜まり自由に時間を過ごせるような、日常的なにぎわいの創出が必要である。

4) ゾーンD

- ・多目的集客施設の導入にあたっての立地ポテンシャルは高い。
- ・多目的集客施設の整備・運営について、完全な民設民営での事業成立は難しいと想定される。
- ・多目的集客施設は低コストで整備・運営することで、民設民営での事業成立の見込みがある。

(3) その他

- ・久屋大通は南北に長く回遊性に課題があり、東西も分断しているため、デッキによる接続や地上部で公園に入りやすくするなどの取組みは重要である。
- ・高木が密集し、外から公園内の活動が分かりにくいいため、見通しの確保のために樹木の管理や植栽の再編などが必要である。
- ・ネーミングライツも含めて広告収入のポテンシャルはある。
- ・建設費・人件費の高騰が続いているため、物価スライドは、実態に合わせ柔軟に対応していただきたい。

4 本事業への参画意向

各社に本事業への参画意向の有無を確認したところ、複数のグループ（企業体）に参画意向があることを確認しました。

5 今後の予定

事業者の皆様からいただいたご意見を参考に、本事業を推進していくために適切な官民の役割分担等を設定し、事業化の検討を進めてまいります。